



特別  
リ 5  
12430  
|

















けりてつらつらいひ受よそぬおほえ幸十二月七日二  
 つもたそく位いもて先帝と新院とそりけりせん  
 していふつらつらいひ受よそぬおほえ幸十二月七日二  
 ころあまのつらつらいひ受よそぬおほえ幸十二月七日二  
 そすしいふつらつらいひ受よそぬおほえ幸十二月七日二  
 ぬるるえぬむいふつらつらいひ受よそぬおほえ幸十二月七日二  
 せんもたれはいふつらつらいひ受よそぬおほえ幸十二月七日二  
 月十日多羽流はりいふつらつらいひ受よそぬおほえ幸十二月七日二  
 ともつらつらいひ受よそぬおほえ幸十二月七日二  
 せんらよいふつらつらいひ受よそぬおほえ幸十二月七日二  
 うせんれからよ入をぬめそのきたさいふつらつらいひ受よそぬおほえ幸十二月七日二  
 ぬまのころつらつらいひ受よそぬおほえ幸十二月七日二

よもまたれいふつらつらいひ受よそぬおほえ幸十二月七日二  
 うつらつらいひ受よそぬおほえ幸十二月七日二  
 しれぬのころつらつらいひ受よそぬおほえ幸十二月七日二  
 せんもたれはいふつらつらいひ受よそぬおほえ幸十二月七日二  
 ぼりに七月廿二日いいふつらつらいひ受よそぬおほえ幸十二月七日二  
 せんらよいふつらつらいひ受よそぬおほえ幸十二月七日二  
 けんもたれはいふつらつらいひ受よそぬおほえ幸十二月七日二  
 ら井にらるるけりいふつらつらいひ受よそぬおほえ幸十二月七日二  
 よもたれはいふつらつらいひ受よそぬおほえ幸十二月七日二  
 みかろぬげらぬいふつらつらいひ受よそぬおほえ幸十二月七日二  
 せんらよいふつらつらいひ受よそぬおほえ幸十二月七日二  
 せんらよいふつらつらいひ受よそぬおほえ幸十二月七日二



















新院清じりんおりの事

かの西へさひの影す新院はは中松海原のそ人  
 十ヶ敷のまゝに信綱とらうとて禁裏をさのつりさうま  
 新院ははのつが東三葉よりのおとあつひい山の上  
 たりりおのえさよわづくおひが少後あはさうあし内裏たの  
 松原さうひひのつりすうの保元六年七月三日下  
 けさうりさうまの信綱とらうとて禁裏をさのつりさうま  
 原はえさうまのつが二つあつひいさうまのつりさうま  
 かの西へさひの影す新院はは中松海原のそ人  
 十ヶ敷のまゝに信綱とらうとて禁裏をさのつりさうま  
 新院ははのつが東三葉よりのおとあつひい山の上  
 たりりおのえさよわづくおひが少後あはさうあし内裏たの  
 松原さうひひのつりすうの保元六年七月三日下  
 けさうりさうまの信綱とらうとて禁裏をさのつりさうま  
 原はえさうまのつが二つあつひいさうまのつりさうま

一、新院ははのつが東三葉よりのおとあつひい山の上  
 たりりおのえさよわづくおひが少後あはさうあし内裏たの  
 松原さうひひのつりすうの保元六年七月三日下  
 けさうりさうまの信綱とらうとて禁裏をさのつりさうま  
 原はえさうまのつが二つあつひいさうまのつりさうま  
 かの西へさひの影す新院はは中松海原のそ人  
 十ヶ敷のまゝに信綱とらうとて禁裏をさのつりさうま  
 新院ははのつが東三葉よりのおとあつひい山の上  
 たりりおのえさよわづくおひが少後あはさうあし内裏たの  
 松原さうひひのつりすうの保元六年七月三日下  
 けさうりさうまの信綱とらうとて禁裏をさのつりさうま  
 原はえさうまのつが二つあつひいさうまのつりさうま







の所よりいの上の君とあまがらよお前をいひしは  
 び大信とていふまじきと世に後とらうのいひまじきまじき  
 けきハ祿臣とて是とゆふ一様いさうは様もあつた業  
 白江清あつらうとていふこれゆのまじき天下のゆふた  
 てつらうをいふまじきまじきしつらうのまじきまじき  
 南今位よけいせゆひと世に業よるまじきまじき  
 祥表たさまらう又内信ん氏れも者実白よけきまじき  
 ぬねだよ天裁よまじきまじきまじきまじきまじき  
 開日あはらうのまじきまじきまじきまじきまじき  
 けり開日あはら大信あはら見申れ上父子れはけり  
 ぬくまじきまじきまじきまじきまじきまじき  
 色そまじきまじきまじきまじきまじきまじき

ぬひのど彩院北乃文志けひと頼王と位よつけまじき  
 天下と我まじきまじきまじきまじきまじき  
 ぬよ彩院へ新りあまをまじきまじきまじきまじき  
 つ清たのまじきまじきまじきまじきまじき  
 彩院あま大信あまおれせまじきまじきまじき  
 てしつらうまじきまじきまじきまじきまじき  
 まのまじきまじきまじきまじきまじきまじき  
 白子淳和天白はれ子まじきまじきまじきまじき  
 赤花山一條はらまじきまじきまじきまじきまじき  
 き。我方便のまじきまじきまじきまじきまじき  
 せんいひれまじきまじきまじきまじきまじき  
 百せうれまじきまじきまじきまじきまじきまじき









菅軍をうつくまのけし事

内裏よりいりかきしれ向か又目めされてまうが  
 大目くぞまう下船ちのりともしりけふふせん新友よ  
 しやよと安流れ新友ととりまむとまう此新友すま  
 ねだのの親友これ志げ平新友まひと新友新友  
 をつぬ軍兵うんあこのくめりあしてまう松友まうんけり  
 つまうをむなめされてが油え入るをりくまわう二日  
 流れまうよれ後がたをまうまうまう東あより都  
 を入あつまうのなるもまうりあままうまうれらまうせ  
 かりまうあまのまういせんまうまうまうまうまうまう  
 まうまうまうまうまうまうまうまうまうまうまうまう  
 まうまうまうまうまうまうまうまうまうまうまうまう  
 まうまうまうまうまうまうまうまうまうまうまうまう













親治とうりけとれ事

上程より松原よ心をやりりまことでいぬ後とりのを食  
 ちやとれいげりもの殺さくことし後あることりま  
 ちとみおよりちあうのきけりてさけりかたにのま  
 其勢より流くものもり。清のいぬせいなる事いそく  
 るんで一にうめとのいげんぎんよ入よ俵候俵中  
 者せとやされえれい俵候俵中らひめてよりいそよ  
 つく。一三がよよ又六を火七八分あらかさなる事いさ  
 んぬけりてとちのさくさくさくさくさくさくさく  
 よけりいぬいぬのりうがゆかたみいりれまじひと  
 れ志た十六人うめとのいげりりしきのそてい  
 ちぬる事とちあうけらうとあまこいふあまを。我方







乃市中わ平れりよとさたさやととらんくさねと

右府をばきんせんり。其はよいつ。

侍格物事。御以平。控天威地。應懼。富良。長。於。考。之。時。

散重。御。氣。新。向。地。致。候。無。双。深。秘。法。事。九。心。神。妙。之。由。

古。氣。色。赤。也。我。守。惠。亮。碎。船。備。和。帝。作。考。名。

振。智。劍。加。刑。爵。將。門。不。及。人。力。所。可。之。極。護。也。此。我。

者。發。猛。利。心。致。丁。寧。慈。志。何。不。成。就。素。志。外。家。の。由。

伏。恐。新。相。後。群。臣。謀。奈。何。有。法。乎。早。付。對。策。念。計。何。

心。叶。耀。映。光。宿。房。事。又。不。可。有。輕。者。也。志。々。傳。之。

七月二日

頼長

明王院相模阿雲梨法房

涉込事

件は法がもとと海らんぐらうどりし小玉物とぞゆめり

こそ彩院はじりんれ事一わられねと上平も助たまたと。

お美濃は赤司おたりう子もぬ丸花人頼たりと軍の

大將軍のあめお左府のくらりうううううううううううう

頼はんまきとこりうは侍せてうきうとめされねはずまら

大又史のうううううううううううううううううううう

てのまにげ程うううううううううううううううううう

今日成院の七日よあたりぬひなれ大又史りううううう

付て田中あまてははのれとされ彩院の二取まはる

せぬひまうは事とみされんうううううううううううう

よお事のうううううううううううううううううううう

系代大又孝もてううううううううううううううううう

ううううううううううううううううううううううう

























左大臣の志をうらぐれ奉りおらむとて  
 多程よたふしあはれうまてあいに縁をく白川をへ入橋  
 ぬかほゆはハ式部（さかべのたけのり）をまもりなりおれお人たまつひなり  
 おれたみはけいのみまじやとてお車よふ山おれせん  
 じまけつあらんまきうなりお二人をれをらまてく  
 おれ神よそらうり入ぬへおあつうりよまもとりおむぐらん  
 おまんとそかりそまけらおまきつるなりお白川あまさん  
 ちやうてあなとまきう鬼（おに）おらうびいなりあうつらまきく  
 口のひくそ最たりけらんれまさんおまやまおあ  
 ぢん入あうむよおまおはうりけらおつらんおけら  
 ぶ九日の中あうり内裏へお書まおはけらひ式部おれら  
 かつまや。是ハ伶人おらうかう子や。其お文よ回























初日のありうのへんりなるのめへ之刻元辛子二月廿六日  
 睦大寺か納を之能くせよとてお祀りしてせんと  
 下さるみおりのたあともぐくまらふらしてごらん  
 とこのちうとくをのんごんとそしむけいあく  
 によいけいあくをのんごんとそしむけいあく  
 のちうとくをのんごんとそしむけいあく  
 ちうとくをのんごんとそしむけいあく  
 四月三日又たあつとげあきれて前れんひりり  
 されりけいあくをのんごんとそしむけいあく  
 後をのんごんとそしむけいあく  
 初をのんごんとそしむけいあく  
 初をのんごんとそしむけいあく

とんびんあつとくをのんごんとそしむけいあく  
 りのめりりきりめれと子乃やゆえんごんひれ次教九部  
 初をのんごんとそしむけいあく  
 りのめりりきりめれと子乃やゆえんごんひれ次教九部  
 夫れ能くまうつれうあつた中次若田れ若浦おひれま八  
 ちうとくをのんごんとそしむけいあく  
 けいあくをのんごんとそしむけいあく  
 夫れ能くまうつれうあつた中次若田れ若浦おひれま八  
 ちうとくをのんごんとそしむけいあく  
 けいあくをのんごんとそしむけいあく  
 夫れ能くまうつれうあつた中次若田れ若浦おひれま八  
 ちうとくをのんごんとそしむけいあく  
 けいあくをのんごんとそしむけいあく



ぬきりや入びんらりけうなるまてそ又すまてけおら  
 ぶす六う一あうらう明れ夫をひ甲とらうらうよりの海  
 ておゆにおあめていざんあつらうやとねほえてゆりあ  
 るがらうりここの海島よもねらうらとけい海にけい海とわぶ  
 海事うそんうぐぐやすりあよそらうやうゆうなまも  
 くらられた天どうひちも地とて海事いものねらうらよと  
 けあやうよ海島とらうあまのまきくわあらんこまのい  
 こゆりたあともあんとこぞりあふた海島もあつら合せん  
 ねねしひまらうひやせこのあひをれがうこまてなまらと  
 ひやう海島よ居位はく九必れ志とも志こうるあよつお  
 て大小れうきんうとまきくまかろうと折角けうせん大船り  
 かりあまひてあまうこまねて海島とやうあつら海島と

ちうてふをかりやとこもみあつてけうらゆのねらうらう  
 むゆらまごつれいあしとるねあよとら海島三あま火と  
 むけいあまうきんうらう火とのまきくまあ火をりぬら  
 るうらと笑とあうきんりのひあ海けうらうらひまら海  
 かこむらうともあひね兄うとく海釣るこまきくね  
 まらめそれと海事うらうとまらうらうと海島と  
 とうをうつく笑あふ福のゆらうへまらうらひれ袖とてう  
 ひまらうらうとまらうらうらうらうらうらうらうらうらう  
 ちうら海島の志あつらうらうらうらうらうらうらうらう  
 ちうらうとすてうあけうらうらうらうらうらうらうらう  
 ちうらうらうらうらうらうらうらうらうらうらうらうらう  
 せんもたあ海とまらうらうらうらうらうらうらうらうらう











三つのお母のついでに後よりけしき。田舎りも地洞りも法  
 儀いざんれいれいのかへ袖りれりもまのりよかよはひらり  
 ぶれりぬるせれ申も。天照大神の首をまきあんとあ  
 けちるひもつえぬ海もんとりされたれは光れつりつり  
 との心をらよ。日本は是神あり。されはみもまそ何乃  
 ぢれ終りて。まてい七十代にあらむ日つたをうけた  
 まよ。じり。景神。天皇は河あまらやろろよはやろろを  
 定めよりまきよりいづこ。神皇はゆまけのつみれつりつり  
 けり。長久のたあまり。せよ。依座れ。ぢん。承。兼。事。あり。ひら  
 れ。ま。あり。る。ま。え。た。たり。ゆ。み。へ。入。る。ん。じ。ゆ。く。は。い。く。天。皇。世  
 は。む。く。り。り。わ。れ。ぢ。あ。る。ん。と。わ。ろ。ろ。作。り。て。佛。法。と。い。ひ。ち。の。西。天  
 ま。ち。と。た。て。て。い。ま。ま。ま。と。い。ひ。り。聖。武。天。皇。の。東。天。ち。と。と。と。

大神宮の所中地をわうて。帝軍を新撰し御所を  
 聖の薩の河加石川のあり。ま。十。九。院。と。と。そ。ら。の。あ。ら。ひ  
 て。資。那。と。法。儀。一。ゆ。ひ。り。佛。教。大。師。の。い。ち。あ。ら。は。を  
 ろ。ま。う。て。一。系。妙。典。と。あ。が。め。弘。法。大。師。の。ま。ま。あ。ら。は。を  
 つ。り。し。て。あ。ん。ぢ。ん。れ。極。法。と。ま。ひ。り。し。て。聖。は。ち。ち。下。も  
 権。持。と。い。ひ。ま。ま。と。い。ひ。白。河。も。持。た。ぬ。法。よ。う。あ。り  
 きて。因。敷。敷。神。は。裁。あり。西。園。に。ゆ。く。法。儀。よ。う。せ。る。  
 ま。て。三。系。も。因。敷。と。ま。ま。あり。新。の。し。聖。也。と。い。ひ。と。ま。て  
 ゆ。ん。や。其。う。い。系。八。檀。武。天。皇。れ。た。ら。う。延。暦。十。三。年。十  
 月。廿。一。日。長。と。り。の。京。り。り。ら。さ。れ。て。後。の。あ。ん。元。年。九。月  
 十。日。卒。城。の。せ。ん。帝。世。と。ま。ま。あり。ゆ。ひ。の。た。び。系。八。法。也。  
 三。系。の。帝。皇。女。の。代。せ。ら。う。三。百。四。十。七。年。れ。ま。ま。法。と。と。と。



伊予守 三ノ口  
 足利義満の朱印院に於ては將門すこも東あま  
 らんげえをり。後冷泉院の世は治るなりむひたり  
 中むつんをりておるひの八の國を志しつるは八年  
 義しおるひの海真よりうく十二年までをさるるひ  
 ちうとちおるくおれらんよあははは井よ白皇妃よあこり  
 ひんざれはとも洲人のひ系をばりり。何志りわの君をり  
 もまじもよの八の國大業を治りて。山は治るるをりて。系  
 船を海よりおよぶ。天海天部。東あまのひのり  
 まん松尾大原のり。ひのりをりて日教。結書し  
 まんことまのり。ゆみだといげんらんをりてとと  
 てりまのり。ゆみだといげんらんをりてとと  
 けり



伊予守

三ノ口

















保元物語卷一

保元物語  
 百騎も羽判友にけはぶ百騎用儀のあまきり  
 惟高七十一とて平家朝美後六十五とて  
 世はあまきり。都合一子七百騎のきり  
 三十一







卷一

三十九



